

# 平成29年度 学校評価

西院中学校

## (1)「確かな学力」の育成に向けて

### 重点目標

- ・わかりやすい授業，言語能力の向上を基本に据えた授業改善
- ・基礎基本の定着を図る授業の工夫と指導（自主学習意識の向上）
- ・毎時間の「本時のねらい」の明示とまとめによるつけたい力の明確化
- ・道徳の教科化へ向けた授業と評価の研究及び実践
- ・総合的な学習の時間の充実と各教科の連携による探究心やプレゼンテーション能力の伸長

### 具体的な取組

- ・全ての教育活動でキャリア教育の視点を持ち，小中一貫教育による9年間を見通したカリキュラムの開発の推進。（西院小，西院中ともにSSH事業と道徳評価研究指定校）
- ・学習に対する姿勢や学習習慣が十分身につけていない生徒に向け，家庭学習との連携も考慮した宿題等の課題の工夫や家庭学習点検活動の工夫，基礎基本の定着を核とした学習習慣の定着に取り組む。
- ・小学校との連携や共同研究により，国語科・算数（数学）科・英語科を中心に横断的に言語活動をおこない，考える力及び表現する力を養う。
- ・小中9年間を見通し，小中合同研修と各データの分析・検証のもとつながりのある教科指導を徹底する。
- ・定期考査前の学習会や土曜学習などが効果的なものとなるよう，学習の未定着が見られる生徒を中心にした取組（振りスタ・未来スタ・土曜学習等）と指導の工夫を図る。
- ・学力低位生徒についての「放課後学習会」については，指導内容をより明確にし，成果のある取組として継続する。
- ・道徳の教科化へ向けてさらなる教材研究と評価研究，公表にむけた工夫を進める。

### （取組結果を検証する）各種指標

全国学力・学習状況調査 学習確認プログラムの結果・生徒アンケート・保護者アンケート・生徒アンケート「自分で計画を立てて課題に取り組んでいる」・生徒アンケート「普段からよく読書をしている」・朝読書や毎月の読み聞かせの実態

### 各種指標結果（1回目）

- ・国語 AB，数学で全国平均より高い正答率をあげることができた。国語では，“話すこと・聞くこと”や“伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項”の区分は，ABともに特に良好な結果であった。また，Bにおいて“書くこと”“読むこと”の区分でも良好な結果を得ることができた。数学では，“数と式”“図形”“資料の活用”の区分と，“関数”の区分でAB全く逆の結果が出た。
- ・質問紙では「家で，自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に対して肯定的な回答は51.5%であった。「家で学校の宿題をしていますか」は肯定的が94.1%に対して，「家で予習をしますか」は肯定的な回答が2%，「家で復習をしますか」は9%全国より低い数字となった。
- ・「読書が好きである」と答えた生徒が63.4%。全国より6.5%低い。
- ・「学校の授業時間以外に，普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，読書をしますか」2時間以上が6%全国より低い，1時間以内は9%全国より高かった。

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「宿題をしている」は90%を超えるが、予習、復習について全国より低い。「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に対して肯定的な回答が51.5%であることを考えると、宿題以外の自主的な学習になかなか取り組めていないと考える。数学ABで逆の傾向が出たことも含めて、基礎・基本を身につけて、社会で既習事項を活用できる力身につけることでバランスのよい学力が必要になり、そのためには宿題だけでなく予習や復習、さらに自主的な学習に取り組むことが大切である。</li> <li>・毎月の読み聞かせの実施や担任も一緒になって朝読書をするすることで、静かで落ち着いた朝読書の時間になるとともに読書は好きだと感じる生徒が増えてはきたが、さらに取組を勧めていく必要がある。読書の仕方については、読書をする生徒は増えてきたが、とことん読み込むような読書をする生徒は、まだまだ少ないようである。</li> </ul>		
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時における小グループでの討議や説明，特別活動や学校行事における意見交流，自主企画・自主運営による活動の充実を図る。</li> <li>・各教科から出される課題は，学力の定着を意識したものになっているが，生徒の主体性を伸ばすものになるような内容を工夫する。</li> <li>・学校図書館の書籍の充実に加え，教科の時間にも学校図書館を利用しやすい環境と教職員への働きかけをする。</li> </ul>		
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個の興味関心に応じた取組が生徒の力を伸ばすことにつながっている。</li> <li>・より高い確かな学力をつけるために基礎学力の伸長，できない生徒へのアドバイスや補足的な活動も必要である。</li> <li>・家庭での子どもとの関わりが希薄になっているのではないか。</li> <li>・読書習慣の定着を図るための情報発信を増やしたり，幅広く情報を得る力を付けるため，新聞や本を読むことは大切である。</li> <li>・自主的に勉強したい生徒が学習できる支援方法を学校とともに検討していきたい。</li> <li>・自分で頑張る力をつけるために，学習の方法の啓発などを共に考えていきたい。</li> <li>・学校が文化の発信者として，読書の機会を増やしたり，新聞記事の掲示をしたりしていくなどの取組に対し支援をしていきたい。</li> </ul>		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">評価日 平成29年10月16日（月）</td> <td style="width: 50%;">評価者 学校運営協議会</td> </tr> </table>	評価日 平成29年10月16日（月）	評価者 学校運営協議会
評価日 平成29年10月16日（月）	評価者 学校運営協議会		
	<p>各種指標結果（2回目）</p> <p>1年生はジョイントプログラムの結果とベーシックの結果比較では，国語で若干の上昇が見られた。</p> <p>2年生はPre3で理科全市平均以上，国語，社会が全市平均であったが，特に数学と英語の学力が改善されず今年度を終えた。</p> <p>3年間かけて総合及び各教科で概ね上昇傾向が見られるようになった。特に，数学，英語で下位層の減少が要因として，上昇傾向が顕著に見られるようになった。</p>		
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>上位層は一定の力を発揮しているが，特に下位層で力を発揮できていない傾向が見られる。</p> <p>数学，英語ともに基礎学力に課題があるとみられる。</p> <p>教科会の充実を図り，細かな分析と取組や授業改善を試みた結果が現れたものと分析できる。</p>		

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>この層を重点的に対象とした授業中の学習支援及び放課後の補充学習に力を入れたが、改善傾向には到らなかった。学習規律は守られているので、自主的な学習への意欲への取組や教師の授業改善に更に力を入れていかなければいけない。</p> <p>来年度は最終学年となるので、下位層の学力向上が課題であるため、現在の未来スタディーや土曜学習等の補充に対する取組を見直して、学力向上を図る。</p> <p>各学年で結果があまりあらわれなかった低位層において、基礎・基本の定着を重点的にはかる取組を、より一層工夫を図り、学校総体として取り組んでいかなければいけないと反省いたします。</p>	
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以前より指摘のあった、ゲームやスマホ、SNS などへの依存と費やす時間が与える影響は大きいと感じる。</li> <li>・学校だけでは限界があるのは明らかで、保護者への啓発や家庭の教育力の向上を目指した取組が大切である。</li> <li>・このことについては、学校だけにまかすのではなく、地域としても保護者を育てるための取組を考えていく必要がある。</li> </ul>	
	評価日 平成30年2月19日(月)	評価者 学校運営協議会

## (2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢、志を大切に自己有用感・自己肯定感を持てるような教育の充実</li> <li>・人権を尊重し自分や他人の「いのち」を大切に作る心の育成</li> <li>・規律や決まりを守り楽しい学校生活を創る教育</li> <li>・美しいものや自然への畏敬の念を深め、地域芸能（六斎念仏や春日祭礼）の伝統継承に参画をうながすことで、自然・社会への関与と地域を大切に作る生徒の育成</li> <li>・集団活動の中における責任や連帯を大切に作る姿勢を育て、生徒自身の道徳的価値観の醸成</li> </ul>
具体的な取組	<p>生徒の自主企画・自主運営を核とした活動を推進するとともに、見守り大切に育ててもらった地域に貢献する機会として、地域と一体となった活動を大切にする。また、地域に密着した職場体験学習と震災防災の取組として「いのちをみつめあう」教育を推進し、前向きに生きる「姿勢」を育てる。また姉妹校との草の根の交流を教育の機会と捉え、日本を見つめ直し視野の広い国際感覚や国際協調、多文化理解の精神など、バランスのとれた人権意識を大切に作る生徒の育成を目指す。</p> <p>(1) CGH（クリーン・グリーン・ハート to ハート）活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クリーン活動…1年生による校内並びに地域の美化活動から課題解決学習</li> <li>・グリーン活動…2年生による校内緑化活動から命の教育や課題発見・解決学習</li> <li>・ハート to ハート活動…3年生による保育園、幼稚園、小学校、デイケアセンターにおける保育・読み聞かせ等ボランティア活動から社会とつながる学習</li> </ul> <p>(2) 地域と一体となった取組への参画並びに小学生など異年齢との協働学習の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西院デイケア…総合的な学習の中で、地域の独居老人を招いて、生徒主体の企画・運営による昼食会、演奏会、生徒会アピールなどによる敬老精神の育成</li> <li>・西院ふれあいコンサート…地域芸能や保・幼・小・中・介護施設の方たちが一堂に会しての</li> </ul>

音楽会の参画による異年齢協働学習（小中合同地域生徒指導連絡会主催）

- ・西院ふれあいまつり…地域交流の場への準備もふくめた生徒のボランティア活動として参画して、地域社会との協働学習

(3) 道徳、人権教育、総合的な学習の時間の更なる教材開発

- ・「いのちを見つめ合う、いのちを大切にする」人間関係の構築
- ・いじめ・不登校についてともに課題意識を持ち、内発的な指摘の目を持つ集団づくり
- ・姉妹校との交流の取組を通して、外国籍の生徒のみならず、日本人の生徒も自らの国際化を進めていく力を育成。
- ・体験学習「CGH活動」「職場体験」「デイケア」など縦割学習で、豊かな心の育成。
- ・挨拶、感謝の気持ちなど、他の人へ発信する日常の教育（教職員、生徒会協働の毎朝の挨拶活動）

(4) 規範意識と他の人や集団における協調の意識づくり

- ・生徒指導委員会の充実化（SC、総合育成教育主任、学年の連携強化）
- ・薬物乱用教室、非行防止教室、ネットモラル等の授業の充実
- ・性教育・男女の尊厳についての授業改善や充実

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒、保護者アンケート「子どもはすすんで気持ちのよい挨拶をしている」「子どもはお互いの人権を大切にしようとする気持ちや態度が育ってきている」「子どもは、自分には良いところがあると感じている」「子どもは、夢やあこがれ、目標を持っている」
- ・生徒による「自主企画・自主運営」の手法の徹底
- ・C(クリーン)、G(グリーン)、H(ハート トゥ ハート)活動の取組の充実

各種指標結果（1回目）

- ・生徒、保護者アンケート「子どもはすすんで気持ちのよい挨拶をしている」肯定的が 82.1%。「子どもはお互いの人権を大切にしようとする気持ちや態度が育ってきている」肯定的が 90.8%。「子どもは、自分には良いところがあると感じている」肯定的に捉えている保護者は 88.3%、生徒は 69.3%。「子どもは、夢やあこがれ、目標を持っている」肯定的に捉えている保護者は 72.7%、生徒は 66.4%。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・「子どもはすすんで気持ちのよい挨拶をしている」かなり定着してきたと感じるが、さらに取り組んでいく必要がある。「子どもはお互いの人権を大切にしようとする気持ちや態度が育ってきている」については、道徳や人権学習の取組が効果を上げていると考えられる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・道徳の授業内容の充実を図ると共に、委員会活動の活発化を図る。
- ・学年ごとの取組が形骸化しないように、生徒の主体性を生かし、より自己有用感・自己肯定感を感じることができるよう取組になるように内容の充実を図る。
- ・さらに、生き方を考える心にはたらくキャリア教育を推進していく必要がある。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・障がいのある生徒との関わりを身近にすることで、人間形成に良い環境になっている。
- ・挨拶をする生徒とそうでない生徒との差を感じる。
- ・地域の中での落ち着きは、学校生活の落ち着きにもつながる。地域行事への参加や地域との関わりをからも自己有用感を感じさせていきたい。
- ・多くの取組を通して公共の精神に基づく態度を育てていく。
- ・挨拶を心のバロメーターとして、その大切さを折に触れ示すとともに、周囲の大人からも率先し

	<p>て気持ちのいい挨拶を心がける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自己有用感を感じることができる場を多く設けることにより、自尊感情を高めると共に、社会生活において必要なことを学ばせていく。</li> </ul>				
	<table border="1"> <tr> <td>評価日</td> <td>平成29年10月16日(月)</td> <td>評価者</td> <td>学校運営協議会</td> </tr> </table>	評価日	平成29年10月16日(月)	評価者	学校運営協議会
評価日	平成29年10月16日(月)	評価者	学校運営協議会		
	<p>各種指標結果(2回目)</p> <p>学校評価アンケートの結果は、前期の結果と今回の後期の結果でそれほど大きな差がみられなかった。その中でも「子どもは学校に楽しく通っている。」と「子どもは夢やあこがれ、目標をもっている。」で高い数字を示している。</p> <p>一方で、依然として「子どもはすすんで読書に取り組む姿を見せている。」「子どもは正しい言葉遣いや言動ができるようになってきている。」が低い数字で上昇していない。</p>				
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <p>読書の時間のほとんどが学校の朝読書という子どもが多く、自主的な読書にならないことで、読書の習慣が身についてこないと考える。</p> <p>社会性に課題を抱える子どもが増えており、友達と直接話をしたり、話をする中で自分のおもいや考えを伝えられない状態がある。</p>				
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>読書週間については、地域の読書支援ボランティア活動と連携し、学校生活の中での読書活動で、読書の素晴らしさを感じさせていきたい。</p> <p>言語活動については、学校運営協議会の保幼小中連携部会で、それぞれの保育所や幼稚園、そして小中が言語活動についてテーマをもって取り組んでおり、取組の情報交流等を深めていくことでより効果的な10年以上の取組としていきたい。</p>				
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>子どもたちにとって、地域の人々の顔をもっと知っている関係になっていきたい。地域の人間としてどんどん子どもたちに挨拶し、声をかけていきたい。</p> <p>読書週間については、子どもの家での生活の忙しさやスマホやゲーム、SNSなどに時間を使ってしまう影響があると思う。特にSNSなどに時間などについては、地域としても保護者啓発の機会等をつくっていきたい。</p>				
	<table border="1"> <tr> <td>評価日</td> <td>平成29年10月16日(月)</td> <td>評価者</td> <td>学校運営協議会</td> </tr> </table>	評価日	平成29年10月16日(月)	評価者	学校運営協議会
評価日	平成29年10月16日(月)	評価者	学校運営協議会		

(3)「健やかな体」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>「いのちと人権」を大切にする生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的生活習慣の確立（食育，健康管理，睡眠）</li> <li>・ 体力の向上</li> <li>・ ものごとを継続する姿勢の確立</li> <li>・ 安全教育と防災教育</li> <li>・ 性教育</li> </ul>	
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規則正しい生活（食育含め）を送れるよう，家庭と連携した取組の徹底，啓発</li> <li>・ 薬物乱用防止の研修，指導を計画的に推進</li> <li>・ 自転車安全教室等の取組を活用した交通マナー向上と安全教育の充実 (スケアード・ストレイトの実施)</li> <li>・ スマホ・ケータイ依存性や危険性について啓発及び情報モラル等の教育の推進。 (「子ども若者はぐくみ局」の情報モラル教室の実施)</li> <li>・ 性教育の授業改善，充実。 (助産師会協力による命・性教育実施)</li> <li>・ 災害発生時の危機回避や関係機関（区役所等）の連携，中学生として災害時に役立とうとする志の醸成（地域，関係機関と提携した震災・防災の取組）</li> <li>・ 部活動の全員部活動制を執り，三年間主体的に学年の枠を越え共通の目標に向かって継続して活動できる精神の育成</li> </ul>	
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的生活習慣の確立・携帯・スマートフォンの弊害についての呼びかけ・生徒全員入部制の部活動の充実・生徒アンケート普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，携帯電話やスマートフォンで通話やメール，インターネットをしますか，同様の内容で「テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか」，同様の内容で「テレビゲームや携帯式ゲームをしますか」</li> </ul>	
<p>各種指標結果（1回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，携帯電話やスマートフォンで通話やメール，インターネットをしますか」で3時間以上になると37.7%で全国より19.6%高くなった。同様に「テレビやビデオ・DVDを見る」は3時間以上が41.6%で全国より16.3%高い。「ゲームをする」は29.7%で8.3高くなった。</li> <li>・ 生徒全員入部ではあるが，校外のスポーツ団体に属する生徒などは両立を図るため，文化系の部活動に属している。</li> </ul>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNSによるゲームや通話，メール・インターネットに対する依存度がかなり高くなっている実態がはっきりとでている。</li> <li>・ 1年生の中で，部活動を途中で変わる生徒が数名いる。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 携帯・スマートフォンの弊害について，生徒や保護者への呼びかけを続ける。</li> <li>・ 部活動における主体的な練習への姿勢の育成。</li> </ul>

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話の所持率は高いようであるが、学校だけでなく、地域や家庭あげて正しい使い方を共通理解して啓発や指導いくことが必要である。</li> <li>・規範意識の向上、流されない指導の徹底を図って欲しい。</li> <li>・どの部においても真面目な活動ぶりであるとともに、所属意識の低い生徒が少ない。</li> <li>・自主企画・自主運営の手法を活かした取組に対し、助言者・支援者として関わっていきたい。</li> <li>・よりのびのびと活動ができるように支援していきたい。</li> </ul>	
	評価日 平成29年10月16日(月)	評価者 学校運営協議会
各種指標結果(2回目)		
<p>基本的な生活習慣のみだれはあまり感じられず「子どもは早寝・早起き・朝ごはん・排便など基本的な生活リズムや健康に気をつけている」の項目においても平均的な数字である。しかし、今年度も前期、後期の調査とともに携帯・メール使用に関しては、使用頻度が高く、就寝・起床時間に影響がでている。</p> <p>1月に、震災・防災の取組を実施、地域・消防団・消防署に協力していただき、人形を使っての心臓マッサージや暗い夜中での避難の仕方などについて全校で学習した。</p>		
自己評価	分析(成果と課題)	
	<p>生活習慣にまで影響が及んではないが、ゲーム・スマホ、SNSの影響が一番でやすい学習状況に表れていると考える。</p> <p>また、この問題は今に始まったことではないが、依然として子どもの友達関係におけるトラブルにつながるケースが多い。</p>	
	分析を踏まえた取組の改善	
	<p>スマホ等の扱いについては、子どもに対して継続的に「使用の仕方」や「その危険性」について指導を繰り返していくことが大切と考える。また、そういった指導を学校がしていることを保護者や地域に知ってもらいことで、保護者や地域からも同じ視線で子どもを見守ってもらえるようにしていきたい。</p> <p>震災・防災の取組では、今後も地域や消防団、消防署とも連携しながら、子どもの自主企画・自主運営の取組として発展させていきたい。</p>	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	<p>地域では、小学校の子どもを中心に見守り活動を行っているが、一小一中ということで中学生の登下校の様子も気にして見るようにしている。「見られている。」という気持ちが子どもの危ない行動を抑えているようにも感じる。中学校卒業までは、学校と一緒に西院のまちでこれからも見守って行ってやりたい。</p>	
	評価日 平成30年2月19日(月)	評価者 学校運営協議会

#### (4) 学校独自の取組

##### 重点目標

##### 9年間の教育目標

中学卒業時の自立・自己実現のための確かな礎を築く（キャリア教育）。

- ・ 確かな学力を身につけ、生涯にわたって自ら学び続けようとする力を育てる。
- ・ 「西院の子どもは西院で育てる」のもと、地域、家庭とともに教育
- ・ 教育活動の活性化のために地域人材や地域環境の有効活用。

##### 具体的な取組

##### 小中連携による

- 児童・生徒の姿から課題の把握と共有 ⇒ 授業の評価、学校評価の活用
- 日常的な情報交換と問題意識の共有（小中各部での情報交流）
- 学力実態の分析・考察・共通理解（プレジョイント、ジョイントプログラム、学力定着調査、全国学力・学習状況調査、学習確認プログラム、進学状況報告）
- 確かな手立て ⇒ 言語活動の充実をめざし、同じ方向を向いた研究の歩み  
(めあての設定・手立ての工夫・評価活動・学習の振り返り・あらゆる場面で指導しきる)
  - ・ 「コミュニケーション能力」を身につけるための9年間を見通した言語活動の在り方について、実践と検証と理論の構築。
  - ・ 道徳教育における、授業改善・評価の在り方についての実践と検証。

##### (取組結果を検証する) 各種指標

- ・ 小中合同授業研修会の実施・保・幼・小・中や地域との連携の取組の充実・異文化理解、国際理解教育の充実・生徒、保護者アンケート「子どもは今住んでいる地域の行事に参加している。」

##### 各種指標結果（1回目）

- ・ 姉妹校との交流の実現。
- ・ 西院デイケアや地域の清掃活動、校区内の保幼小との連携による取組。 .
- ・ 小中合同授業研修会の実施。
- ・ 生徒、保護者アンケート「子どもは今住んでいる地域の行事に参加している。」で肯定的に捉えている保護者が 39.7%，生徒は 38.6 で全国より 3.5%低い。

##### 自己評価

##### 分析（成果と課題）

- ・ 地域の取組や行事にどんどん出かけて活躍している現状を考えると、半数以上の保護者や生徒が「参加していない」と捉えているのは、地域の取組や行事に参加することが、生徒にとって日常的なものになっていると考える。
- ・ SSH 事業による各学年でのポスターセッションが小中と堀川高校協働学習において、学びに対する積極的な姿勢が育ちつつある。

##### 分析を踏まえた取組の改善

- ・ 地域の行事や取組の意義を学ばせると同時に、それに参加することの素晴らしさをしっかりと感じさせていきたい。
- ・ 小中連携による9ヶ年を見越した学力の分析や改善策の検討をする。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多種多様な家庭環境の中で、保護者をも支援できる場として、地域との交流を大切にしていきたい。</li> <li>・独自の取組において、生徒の探究心をより伸ばしていくことが大切である。</li> <li>・一小一中の環境を強みとして、9ケ年を見通した活動を地域と共に進める。</li> </ul>	
	評価日 平成29年10月16日(月)	評価者 学校運営協議会
各種指標結果(2回目)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中連携として9年間の学びの連続性を大切にした徹底的な学力向上にむけた取組実施。2月には、2年生による修学旅行を終えてのポスター発表会を実施。 (SSH事業の連携、小中ともに道徳の授業改善による評価の検討、英語科教員の小学校授業TTとしての参加、小中連携した朝読書の取組など)</li> <li>・地域行事等については、参加することの意味を理解しないまま、参加・活動していたり、非常に参加行事が多い地域性からそれぞれの行事に参加することが当たり前になってしまっていると考える。</li> </ul>		
自己評価	分析(成果と課題)	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSH事業によるポスターセッションにおいては、上級生の発表や小学生が中学生の発表を見る機会をつくりながら連続した学びの形体としていることで学びに対する見通しや積極的な姿勢が育ちつつある。</li> <li>・やはり地域の取組や行事にどんどん出かけて活躍しているにもかかわらず、半数以上の保護者や生徒が「参加していない」と捉えているのは、子どもにとって地域の取組や行事への参加の意味やあまりにも自然なものになってしまっている。</li> </ul>	
	分析を踏まえた取組の改善	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動については、ポスター発表からポスターセッションにまで高めていくためにも、子どもが行う探究活動の在り方について学校全体での研究を深めていきたい。</li> <li>・地域の取組や行事に参加することの意味を教職員自身が共通理解し、さらにそのことが子どもにどのような力を培うことになるのかを明確にして取組をすすめる。</li> </ul>	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	3年生のチャレンジ体験で感じることだが、子どもの取組に対して、どのように学ばせてやればいいのかやどんな学習をして取組に臨んでいるのかがわからないときがある。学校と地域や事業所がしっかりと連携して子どもの学びを支えていくようにしないといけない。	
	評価日 平成30年2月19日(月)	評価者 学校運営協議会